

V. 教科研究・特別研究

社会科

十年経験者研修報告

中野和之

【抄録】 十年修了者研修を一年間受けた中で、学内研修のみならず、県の教育総合センターでの研修など、多彩な研修の経験が教員としてのリフレッシュ機能を果たしていたと思われる。

【キーワード】 学外研修 社会科研修 社会体験研修

1. はじめに

十一年目の教員生活の終わりに、十年修了者研修への参加を打診され、早速一年間の計画を策定した。大きく分けて学内研修と学外研修とに分かれており、それぞれに法定研修日程が決められている。以下、一年間の研修概要を示す。

2. 全体計画

表にして末尾に掲載

3. 社会科研修

第1回 平成17年8月2日(火)

研修内容

講義 「社会科における指導と評価について」

愛知教育大学 助教授 土屋 武志

グループによる話し合いを中心に

- 1 二人一組による自己紹介
 - 2 五人一組による他者紹介
 - 3 新聞記事をグループで読む
 - 4 グループ同士で、選んだ記事の紹介
 - 5 記事に対する質問・応答
 - 6 もしも、何もない惑星に辿りついたらどうするのか
 - 7 3つのきまりをつくる。
 - 8 1つの罰則をつくる
- まとめ 何の力が必要であるのか→学力を把握する

第2回 平成17年8月5日(金)

研修内容

実習 「社会的な事象の見方・考え方を育てる野外調査の在り方」

瀬戸市立下市品野小学校 長江 巖

- I 印象に残った社会科の授業
- II 「社会的な事象の見方・考え方を育てる野外調査の

在り方」とは

- 1 「社会的な事象」とは
- 2 「社会的な事象の見方」とは
- 3 「社会的な事象の考え方」とは
- 4 「社会的な事象の見方・考え方」とは→見方・考え方が並列に並ぶのは？
- 5 「社会的な事象の見方・考え方を育てる野外調査の在り方」とは

III 野外調査

1 事前指導について

- ① 見学が1回だけの場合
- ② 見学に2回以上行ける場合

2 調査活動の実際

- ① 方法
- ② 観察の視点→疑問を持たせる

3 事後処理

4 教育センター周辺での野外調査

- ① 事前
- ② 実際の調査活動
- ③ まとめ
- ④ 発表

IV まとめ

第3回 平成17年8月8日(月)

研修内容

- ① 2学期に授業を行う単元を一つ選択
- ② 単元の全体構想・単元の評価基準・1時間の指導案を作成
- ③ 途中作成の指導案でも、提出
- ④ 3分野のグループに分かれて討議・発表

第4回、期日 平成17年8月10日(水)

研修内容

- ① 施設見学
名古屋入国管理局(名古屋センタービル3階)
愛知県警察本部 総合科学センター

通信指令室
交通管制センター
広報センター見学

名古屋地方裁判所

- ② 講話 (名古屋入国管理局)
「適正な外国人の受入と共生」
渉外調整官 原田 明夫
入管行政の課題「不法滞在者半減と観光立国の相反する政策」
1、出入国管理基本管理計画の策定
2、第3次出入国管理基本計画
ア、円滑な受入
イ、治安の回復への取組
3、日本人との共生
- ③ 講演 (名古屋地方裁判所)
「裁判員制度について」
刑事部判事補 宮部 良奈
1、なぜ裁判員制度が導入されたのか
2、裁判員制度の概要
3、裁判員となるまで
裁判員の資格
裁判員の辞退事由
裁判員の権利・義務
裁判員の保護
4、まとめ

4. 社会体験研修

- 場所 名古屋大学附属図書館
日時 8月1・3・4日
8月1日 講義「大学図書館の現状と課題」
(伊藤義人館長)
講義「大学図書館の利用者サービス」
(臼井克己 サービス情報課長)
閲覧実習・図書館見学①
(中央図書館及び農学部図書室)
8月3日 講義「大学図書館の業務電算機システムの昔・今・将来」
(郡司 久 情報システム課長)
参考調査実習・目録実習・図書館見学②
(経済学部・国際開発研究科)
8月4日 雑誌実習・図書書架整理
講義「ハイブリッド・ライブラリ」
(研究開発室 逸村裕助教授・秋山晶則助手)
大学図書館員と語る会

5. 学外研修

- 研修名 全附連 高等学校教育研究大会
期日 平成17年10月20日・21日
研修場所 筑波大学附属駒場高等学校

研修内容
分科会 I

- ①「3年次の総合学習「金曜スタディ」の実践報告」
筑波大学附属高等学校 中塚義実
②「本校における「総合的な学習の時間」の取り組みと課題」
筑波大学附属駒場高等学校 関口隆一
③「ゼミ形式を導入した高校2年生の学術研究－総合的な学習の時間における論文作成指導－」
東京学芸大学附属高等学校 浅田孝紀
安井 崇
④「進路選択に結びつけるための総合学習」
大阪教育大学附属平野校舎 岡本利昭

分科会 II

- ⑤「教科「福祉」における科目開発－「比較文化」の実践研究報告－」
筑波大学附属坂戸高等学校 竹内義晴
小林美智子
⑥「教科「福祉」における科目開発－総合学科の特徴を生かした横断的科目の実践－」
筑波大学附属坂戸高等学校 茂木好和
小林美智子
⑦「研究開発新科目「起業基礎」－新たなキャリア教育の次元を開く－」
筑波大学附属坂戸高等学校 小澤信治
⑧「新教科「自然と科学」－分離融合型教科としての実践－」
名古屋大学教育学部附属高等学校 中野和之
⑨「学校設定教科「探究」」
愛知教育大学附属高等学校 稲垣安彦

分科会 III

- ⑩「近隣住民へのインターネット体験教室と無線LANの活用について」
東京学芸大学附属高等学校 坂井英夫
⑪「プルーフその後・「ユリイカ」あれこれ」
大阪教育大学附属天王寺校舎 岡本義雄
滝口修司
⑫「フリーサブジェクト」の実践事例－地歴公民科・数学科教師の取組から－」
愛媛大学附属農業高等学校 岡本真喜雄
森 良樹

シンポジウム

- 「法人化2年、附属学校のいま、これから」
シンポジスト 浦野東洋一 帝京大学教授
磯田文雄 筑波大学理事
コーディネーター 井上正允 佐賀大学教授

6. 研究授業

日時・場所 2006年2月10日 (金)

第1限 (10:00~10:50)
 社会科教室 (高校棟4F)
 学年・生徒 中学1年B組 (41人)
 テーマ 「沖縄の特色と環境」
 - 開発と環境をめぐって -
 目標 1) 沖縄について、多面的に考える。
 2) 他人の意見を聞くことにより、多様な考え方があることを知る。
 3) 環境問題についての自分なりの考えを持つ。

設定の理由 日本の歴史の中で、侵略を絶えず受けてきた沖縄は、同じ日本国民として平等な権利を享受する理念の外側に存在していたといっても過言ではない。現在も基地問題などで劣悪な状況におかれているのが、その証左であろう。沖縄の現状を知ることは、日本の抱えている問題点を浮かび上がらせる。学習を始める前提として、多面的な沖縄社会を知ることが必要となろう。そこから、現在の沖縄の抱えている環境問題や平和に対する考えを中学生なりにまとめておくことは必要である。今回の授業は、次年度に学習する総合学習「生命と環境」の出発点とし、併せて地理的分野の環境学習を行うものとする。

指導過程 ・沖縄の特色を中心にした各班のテーマの決定 1/9
 ・各班による調べ学習 2・3/9
 ・各班による発表準備 4/9
 ・各班の発表 5・6/9
 ・各班によるパネルディスカッションの準備 7・8/9
 ・パネルディスカッション 9/9 (本時)

本時の目標 1) 他者の意見を聞き、幅広い考え方があることを知る。
 2) 話し合いを通して、自分たちが今後、何をしていけば良いのかを考える。

本時の学習活動

時間	主な学習活動	教師の支援
5分	議長役の生徒から、本時の説明	説明に対する補足
20分	環境問題について 2班からの提言 1班 10分の持ち時間	
20分	各班からの質疑・応答 事前の学習を踏まえて 質問する	
5分	議長によるまとめ	まとめに対する補足

授業形式 生徒によるパネルディスカッション
 役割 議長 副議長 (タイムキーパー)
 自然分野・産業分野からの環境に対する提言者
 五班の班員 (自然・産業・生活・基地問題・歴史)

7. まとめ

一年間を通じて、十年修了者研修を行ってきたが、ここに紹介できなかった内容がまだ半分近く残っている。それほど、内容の濃いものだったといえよう。法的な整備の許での研修機会ではあったが、研修予算の保証されている点では良い研修であったと思う。

全体計画

実施月日	日数	研修内容	指導者等	場所等
4月11日 月曜日	1日	特定課題研究 授業参観 「記者会見ゲームⅠ」	吉田 俊和 本校校長	本校 第一総合教室
4月14日 木曜日	1日	特定課題研究ソーシャル 授業検討会 Ⅰ	吉田 俊和 本校校長	本校 校長室
4月21日 木曜日	1日	特定課題研究 授業実践 「記憶の歪み」	鈴木 克彦 本校教諭	本校 中学1年B組
5月12日 木曜日	1日	特定課題研究ソーシャル 授業検討会 Ⅱ	吉田 俊和 本校校長	本校 校長室
5月19日 木曜日	1日	特定課題研究 授業実践 「物の見方」	吉田 俊和 本校校長	本校 中学1年B組

十年修了者研修報告

6月2日 木曜日	1日	特定課題研究ソーシャル 授業検討会 III	吉田 俊和 本校校長	本校 校長室
6月10日 木曜日	1日	第一回中学校10年経験者研修	前田 勝洋	総合教育センター
6月16日 木曜日	1日	特定課題研究 授業実践 「出来事の見方」	鈴木 克彦 本校教諭	本校 中学1年B組
6月30日 木曜日	1日	特定課題研究ソーシャル 授業検討会 IV	吉田 俊和 本校校長	本校 校長室
8月2日 火曜日	1日	第二回中学校10年経験者研修	土屋 武志	総合教育センター
8月5日 金曜日	1日	第三回中学校10年経験者研修	長江 巖	総合教育センター
8月8日 月曜日	1日	第四回中学校10年経験者研修	前田 治	総合教育センター
8月10日 月曜日	1日	第五回中学校10年経験者研修	前田 治	入国管理局など外部 施設見学
8月19日 金曜日	1日	第六回中学校10年経験者研修	横田美佐子 高間 孝治	総合教育センター
8月23日 火曜日	1日	全国国立大学附属学校連盟（全附連） 東海地区研究協議会 教育課程分科会	高橋 洸治 （静岡大教員）	静岡市 アソシアホ テル
8月26日 金曜日	1日	第七回中学校10年経験者研修	三輪 清次 鈴木 泰寛	総合教育センター
8月31日 水曜日	1日	講義「理解を深め、思考力を育てる： 新しい学力モデルと授業の進め方」	藤村 宣之 名大助教授	本校 第1総合教室
9月29日 木曜日	1日	特定課題研究ソーシャル 授業検討会 V	鈴木 克彦 本校教諭	本校 校長室
10月6日 木曜日	1日	特定課題研究 授業実践 「帰属I」	鈴木 克彦 本校教諭	本校 中学1年B組
10月13日 木曜日	1日	特定課題研究ソーシャル 授業検討会 VI	鈴木 克彦 本校教諭	本校 校長室
10月20・21日 （木・金曜日）	2日	全附連 高等学校教育研究大会 新課程分科会 「新教科「自然と科学」と題して、実践 報告をする	関口 隆一 駒場高等学校 教諭（司会）	筑波大学附属駒場高 等学校
10月27日 木曜日	1日	特定課題研究 授業実践 「モラルジレンマI」	鈴木 克彦 本校教諭	本校 中学1年B組
12月1日 木曜日	1日	特定課題研究ソーシャル 授業検討会 VII	鈴木 克彦 本校教諭	本校 校長室
12月8日 木曜日	1日	特定課題研究 授業実践 「印象形成」	鈴木 克彦 本校教諭	本校 中学1年B組
12月26日 月曜日	1日	第八回中学校10年経験者研修	戸田 清徳 横田美佐子	総合教育センター

2月3日 金曜日	1日	第九回中学校10年経験者研修	金井 篤子 大道伊津栄	総合教育センター
2月10日 金曜日	1日	中等教育研究協議会 中学1年社会「環境と開発」研究授業	丸山 豊 本校副校長	本校 社会科教室

【集計表】

○ 愛知県総合教育センターにおける校外研修参加日数	9日
○ 愛知県総合教育センター以外における校外研修参加日数	3日
○ 校内研修実施日数	16日
合 計	28日